

## 衣の会創立30周年記念「第19回造形作品展」

30周年記念事業の一つとなる造形作品展が、10月15・16日、目白祭に併せて百年館302教室で開催されました。今回は、衣の会に最も相応しい「装う」というテーマのもと、プロとして活躍されている9人の卒業生の方々に、ドレスを中心として、アクセサリーやバッグなども出展していただきました。

2日間の来場者数は約680人にのぼり、大盛況でした。来場者へのアンケートからは、バラエティーに富んだ素材や細部へのこだわり、個性あふれるデザインや発想に驚き、見ごたえのある力作揃いとの高い評価をいただきました。個別の作品に若い学生からは「組紐が授業で作ったのとは違い、立体的な作品で驚いた」「洗濯できる和紙のドレスは、素材使いやデザインが斬新」、また受験生の親世代からは「衣の会という、卒業後も繋がりがあがるのは素晴らしい」との感想がありました。

### 多田牧子さん (20回生)

京都工芸繊維大学大学院非常勤講師、組紐・組物学会理事



ネックレス「珊瑚」「棘」「藻」シリーズ。自然界の面白い形からヒントを得て製作したもの。“まっすぐでない組紐”を作るために、丸台を用い、様々な技法を考案して組んだ立体的な組紐の作品。  
左：中央の緑色コサージュは“羅”の布のように隙間の空いた組紐を使用。右：2つの作品（「珊瑚」のネックレスと「羅」のコサージュ）を組み合わせて使うこともできる。

### 鮫島順子さん (21回生)

レース作家



左、右上：ウエディングブーケとブートニア。ブーケはボビンレースで花卉を作ったバラをメインに、アートフラワーと組み合わせた。バラ1輪につき8枚の花卉が必要で時間がかかった作品。右下：テーブルランナーは、それぞれ和紙の糸、麻糸、ステンレス糸を使用しており、風合いが異なる。

### 本郷啓子さん (24回生)

ニットデザイナー



左：ワンピースと帽子とベスト。ブロックアフガン編みで段染色のおもしろさを出し、無地色をアクセントカラーでまとめ、ゴム編みの身頃を組み合わせた。  
右：花モチーフのノースリーブとプリーツスカート。スカートは絹糸と細いラメ糸を組み合わせプリーツを作り、動くことによりプリーツがきれいに揺れる分量にした。

### 高水伸子さん (32回生)

東京家政大学教授



「薔薇のテーマによる二連作」  
左：サマーベルベットを花びらの絨毯のように形作り、土台布に留めたドレス  
右：キッドモヘアを用い平編みと引き換えし編みをベースにしたハンドニット。苦心した点は①糸質と色、②構成と編み方向（土台身頃、花卉、スカート部分を別々に編んでから繋げた3部構成）③糸の切り替えタイミング。

### 瀬端靖子さん (38回生)

手芸作家



“せばたやすこ”の名前で、初心者にわかりやすく刺繍と編物を教える本を執筆。作品はバッグ、ニットウエア、マフラー、手袋、靴下など。他に「リリアンニッター」という編み用具とそれで作った作品を出品。

### 滝澤 愛さん (49回生)

服飾デザイナー、椋山女学園大学講師



左：オートクチュールの伝統的な技法（全て手で縫い付けてある）による繊細なレースとハードな牛革素材を組み合わせたドレス。  
右：一枚布によるNO WASTE DRESS。リデザインで、何回でも再生できる究極のサステイナブルな洋服。



〈レース部分〉

### 田坂泰子さん (通信43回生)

服飾デザイナー、アトリエ田坂主宰



左：イブニングドレスは、絹シャンタンが長尺のためボディを使用して立体裁断。ストールはピアンキニ社製の絹シフォン。  
右：漆黒のワンピース。ボディを使用して立体裁断。1枚布で製作、後ろで輪にしてドレープを作った。

### 矢澤郁美さん (通信大学院1回生)

梅花女子大学准教授



洗える和紙と紙糸を織り込んだ紙布を使用。国産手漉き和紙に、水に溶かしたこんにゃく粉を塗り・乾かす工程を繰り返す、などの方法により洗えることを実現。  
身頃や袖に桜、スカートに七宝のモチーフを用い、全体に折り紙など日本文化を連想させるデザイン。

### 大塚有里さん (通信大学院3回生)

東京家政大学准教授



左：ツーピースドレス。身頃は、赤・茶系の原毛やモヘア糸を何層にも重ね合わせたフェルトで、スカートは韓国の伝統工芸“ポジャギ”のように薄布を細かくつないで作った。  
右：身頃の葡萄の実をフェルトボールで作り、スカートや袖はかぎ針編み、洋裁によるドレス。



日本の伝統的な刺繍である呂刺しによるバッグ。光の加減で絹糸の光沢が美しく変化する。